

熊本の歴史を市民とともに未来へつなぐ知の拠点

1. 市民にとって身近で、親しみやすい公文書館を目指します

- 市民共有の知的資源である公文書を、親しみやすく誰もが気軽に利用できる公文書館を目指します。
- 開架スペースを設置し、市民向けのレファレンス業務を公文書館で行います。
- 公文書展示コーナー等も設置し、専門家による調査研究だけでなく、広く、多くの方への利用を促進します。
- 関連施設や学校との連携を図り、幅広い世代の方々に公文書を活用いただきます。

2. 熊本地震など、災害の記録を継承する公文書館を目指します

- 過去の災害や復興に関わる記録を適切に評価・選別し、保存・管理します。
- 公文書を今後の政策立案に役立てます。
- 展示や講座等を通じて、災害や復興の記録を情報発信し、未来へ継承します。

3. 中間書庫を併設した公文書館で公文書等を一括管理し、適切な保存環境を目指します

- 公文書館は災害の影響を受けにくい場所を選び、水損・滅失・カビ・虫害等から資料を守る保存環境を整備します。
- 公文書を保存期間満了まで中間書庫で一括管理のうえ、廃棄文書の確認等を確実にを行い、公文書の誤廃棄を防止します。
- 公文書館では公文書の中でも歴史的に重要な特定歴史公文書等を適切な保存環境で管理します。

4. 公文書をデジタル化し、いつでもどこでも無料で公文書にアクセスできる公文書館を目指します

- デジタル化により、現物の紙資料を出し入れする頻度を減らし、資料の劣化を防ぎます。
- デジタル技術を駆使し、公文書をデジタル化することで、資料へ新たな付加価値を与え、利用者の利便性向上を図ります。
- 来館しなくても、デジタル化した公文書にいつでもどこでも無料でアクセスできる知の拠点を目指します。